令和6年度 第5回八戸市総合計画等推進市民委員会 議事録

日 時：令和6年8月30日（金） 午後2時～午後3時50分

場 所：YSアリーナ 大会議室

出席委員：堤 静子 委員長、宮腰 直幸 副委員長、小笠原 圭一 委員、柴田 紀志 委員、
高森 えりか 委員、立花 悟 委員、田頭 順子 委員、中村 一明 委員、松橋 満幸 委員、
峯 敬子 委員（計10名）

事務局：谷神総合政策部長、安原総合政策部長兼政策推進課長、見付 GL、磯谷主査

【1. 開会】

○司会（見付 GL）

ただいまから「令和6年度 第5回八戸市総合計画等推進市民委員会」を開催いたします。先週に引き続きということで、皆様にはお忙しい中御出席していただきまして、本当にありがとうございます。今日は政策公約の2回目になりますが、後半部分の評価の方になりますので、是非ともよろしく願いいたします。

【2. 資料の確認及び委員長挨拶】

○司会（見付 GL）

それでは、資料の確認をしていただいて、本日の議事に入りたいと存じます。本日の会議資料は、皆様のお席にお配りしました、次第、出席者名簿、席図、資料1～2、参考資料1～2でございます。それでは、開会にあたりまして、堤委員長から御挨拶をお願いします。

○堤委員長

皆さん、こんにちは。今お話があったように、今日は後半戦の政策6から9の審議の方に入ります。皆様におかれまして、是非とも積極的な御発言、議論ということでお願いしたいと思っておりますので、本日もよろしく願いいたします。

○司会（見付 GL）

ありがとうございます。それではここからの進行について、堤委員長よろしくをお願いします。

○堤委員長

それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきます。本日は午後4時頃の終了を予定しておりますので、御協力いただきますよう、よろしくをお願いします。前回の続きからで、本日は政策6から9までを審議後、最後に政策公約全体の評価を行う予定です。また、政策7の審議終了時点で休憩をはさむ予定にしています。

4. 審議

政策6「子どもファースト事業」の展開

○堤委員長

それでは、審議に入ります。まずは、「政策6「子どもファースト事業」の展開」について、事務局より説明をお願いします。

○事務局（磯谷主査）

参考資料1の5ページをお手元に御準備ください。政策6は子どもファーストに関する分野で、4つの重点施策で構成されております。政策6は「子どもの未来は社会の未来」との考えのもと、子育て支援や教育の充実に努めますというものです。

- ① 子ども医療費助成の対象拡充、子育て支援の充実、学校施設の老朽化対策など、子どもや子育て世代にやさしい子どもファーストの事業に取り組みます。
 - ② 幼児保育の重要性の認識や職場環境の改善を図り、人材の確保に努めると共に、幼児教育の質の向上に向けた研修体制や小学校との円滑な接続を図るカリキュラムを構築します。
 - ③ 学校のプログラミング教育や国際交流事業のさらなる充実に図り、未来の八戸を担う子どもたちの学びを支えます。
 - ④ 食品関連事業者や関係団体などとの連携の下に、子ども食堂の支援に努めます。
- の4つで構成されております。

それでは、資料1事務局評価案の8ページを御覧ください。

重点施策6-1では、子どもや子育て世代にやさしい子どもファースト事業の推進です。41事業紐づけており、事務局評価案は昨年度より上昇し、「達成できている」としております。

理由は、関連する事業が毎年度大幅に拡充されており、子育てを支援する取組として、子ども医療費助成の所得制限の撤廃で10月からは高校生通院を助成対象に追加予定です。乳児期の健診費用の助成や奨学金制度の拡充など、子育て世帯への経済的な支援や妊娠期から子育て期の切れ目のない寄り添い支援といった多彩で豊富な子育て支援を総合的に支援する事業に取り組まれていること。

また、まちの魅力創生ネットワーク会議からの提言を踏まえて事業化した「マチナカまるっと1日体験事業」を開始するなど、今年度からは子どもの体験支援に関する複数の取組を開始していること。こちらについてはこどもが職業体験できる事業に取り組む必要があるとの昨年度の委員意見を踏まえた取組となります。

さらにプラネタリウム設備の全面改修を行うとともに、昨年度策定した「八戸市視聴覚センター・児童科学館リニューアル基本計画」に基づき、現在展示物改修に向けた準備を進めているところであること。こちらについても、児童科学館のリニューアルをする必要があるとの昨年度の委員意見を踏まえたものとなります。

加えて、こどもの国の大型複合遊具や小・中学校施設の経年劣化箇所の修繕及び小・中学校施設のエアコン整備についても完了するなど、環境改善のための営繕といったハード面についても、計画的に整備を進めており、子どもファースト事業について、ソフト・ハードの両面から幅広い取組が実施されているためでございます。

続いて、次のページを開き願います。重点施策6-2では、幼児保育の人材確保と研修体制及び小学校との接続カリキュラムの構築です。5事業紐づけており、事務局評価案は昨年度と同様に「一部達成できている」としております。

理由は、保育士資格取得支援等による保育人材の確保や幼児教育の質の向上のための教職員研

修が実施されていること。小学校との円滑な接続を図るカリキュラムの構築については、幼保小連携研修講座等の関係者協議の機会を複数回設け、プログラム（カリキュラム）作成に向けた周知・啓発を行っており、各施設が自分たちの施設に合ったプログラムを作成しやすいよう、市では「幼保小の架け橋プログラム」の様式を構築したところであること。今後は、各施設に対して、作成したプログラムの運用について周知・啓発を展開することが予定されていることから、一部達成と判断したためでございます。

次のページをお開きください。続いて、重点施策6－3では、子どもたちの学びを支えるところで、4事業紐づけており、事務局評価案は昨年度から上昇し、「達成できている」としております。

理由は、プログラミング教育等を充実させるため、市教育委員会から教育現場へ GIGA スクール構想に関連した指導・助言が実施されており、教育現場においてその効果が確認されているほか、児童生徒の PC 環境の更新について計画的に進めているところであること。こちらについては GIGA スクール構想に対応した人材確保・育成に関する取組をする必要があること、また、計画的に PC メンテナンスに対応する必要があるとの昨年度の委員意見を踏まえた取組となります。

また、国際交流については、コロナ禍や社会情勢の影響により制約がある中、米国児童や中国児童との対面での交流やオンライン交流による国際交流の充実が図られているためでございます。

続いて、重点施策6－4では、子ども食堂の支援で、2事業紐づけており、事務局評価案は昨年度と同様に「一部達成できている」としております。

理由は、子育て家庭に食材等を配布する「八戸こども宅食おすそわけ便」の広報、食材提供者と子ども食堂実施団体とのマッチング、子ども食堂及び八戸こども宅食おすそわけ便の実施団体への後援、物価高騰に伴う支援に加えて、子ども食堂の関係団体を対象にアンケート調査が実施されていること。今後の具体的な支援策は、関係団体との意見交換会の結果を踏まえ検討中であることから、一部達成と判断したためでございます。

最後に、政策6を構成する各重点施策について、一部達成の項目もあることから政策6全体の評価は「一部達成できている」としております。以上が政策6の説明になりますが、事前質問がでておりますので、資料2の2ページをお開きください。

意見と質問が出ております。No. 1の意見ですが、数ある施策のなかでも特に子どもファースト事業については毎年度の拡充を拝見することが出来ており、大変すばらしいと思えました。おいらせ町などの周辺各自治体も子どもや子育てに関する施策は多く取り組んでいます。八戸市もこの人口規模のなかで積極的な施策がここ数年で目に入るが増えたように感じます。積極的な発信を継続しながら他の自治体に劣らない魅力的な施策があることを一人でも多くの市民や移住を検討している方に届いてほしいと考えます、といった御意見でございます。

また No. 2の質問ですが、

- ① 「広報はちのへ」の全戸配布は行政員と業者によるポスティングによるものと思いますが、行政員とポスティングの割合について。
- ② ストック型でウェブから PDF 版をダウンロードしてみたり、各種 SNS による情報発信もしていますが、現時点でのアクセス数やフォロー数について。
- ③ マチイロアプリの現時点でのダウンロード数について。
- ④ アプリで読むので印刷物での配布は不要という連絡やその数について。

⑤ 「広報はちのへ」の紙媒体による印刷や全戸配布は、経費やDX推進の関係で議論となることはないのか。

といった5つの質問をいただいております。そちらの回答ですが、

- ① 行政員のなり手不足に伴う町内会の負担軽減や行政員の減少、広報紙配布事務の効率化等を総合的に考慮し、令和5年度をもって行政員制度を廃止して令和6年度から市内全域を業者配布としました。令和5年度末の行政員とポストイングの割合は、行政員3.1%、ポストイング96.9%となっております。
- ② 「広報はちのへ」は、紙面データを市ホームページに掲載して誰でも閲覧できるようにしているほか、広報紙配信アプリ「マチイロ」を活用し、アプリ登録者に紙面データを配信、令和6年度からは多言語翻訳・音声読み上げアプリ「カタログポケット」の運用を開始しております。加えて、毎月発行日にはX、Facebook、LINEでお知らせしているところです。次のページをご覧ください、それぞれのアクセス数・フォロワー数は記載のとおりでございます。
- ③ マチイロでの「広報はちのへ」登録者数は1,943人で、閲覧数は集計機能がないため不明です。
- ④ 「マチイロ」による広報紙配信を始めた平成29年4月以降、及び多言語翻訳・音声読み上げアプリ「カタログポケット」による広報紙配信を始めた令和6年4月以降に、「アプリを使用するため紙媒体の配布は不要」という理由での配布不要連絡は今のところございません。
- ⑤ 経費につきましては、「市政情報発信力の強化事業」を進める上で、幅広い世代の市民に市政への関心を喚起するための入口の役割である「広報はちのへ」は重要な広報媒体の一つであることから、必要な経費と認識しております。しかしながら、「フルカラーで紙質も良くなり豪華すぎる」などのお声も市民の方からいただいていることから、令和6年度は、紙の厚さを一段階薄くして用紙代を削減するとともに、印刷経費を広報統計課予算に一元化し記事量やページ数を調整することで、印刷経費の削減に取り組んでおります。

インターネットやスマートフォン等のデジタル端末が広く社会に浸透している近年、高齢者のインターネット利用は上昇傾向にあり、総務省「通信利用動向調査」によると、年齢階層別インターネット利用率は60歳代が86.8%、70歳代が65.5%となっております。高齢者のインターネット利用は今後さらに進むと予想され、相対的に高齢者等情報・通信技術の利用に困難を抱えている人の割合は低下傾向にあることが伺えますが、一方で、令和4年度に40歳未満の市民を対象に実施した「令和4年度八戸市若者意識調査アンケート」では、行政情報の入手方法について、市HP(51.5%)に次ぐ2位(46.3%)と高いポイントを示しており、「広報はちのへ」は紙媒体に慣れ親しんだ高齢者だけではなく、インターネットでの情報収集がメインである40代以下の世代においても一定の需要があると認識しております。「広報はちのへ」の紙媒体による印刷や全戸配布については、他自治体の事例を研究していくとともに、当面の間は紙媒体とデジタルの併用が情報発信の手段として有効だと考えております。

最後にNo.3、関連意見となっておりました。マチイロアプリのほうが高齢者にとっては見やすいといったことがあるので、いつまでも高齢者には無理だからで済ますことなく、「広報はちのへ」をきっかけとしてシニア世代のデジタルリテラシー向上の取組などの検討をぜひ進めてほしいと思います。地域における市民の情報格差をなくすことは危機管理等、市全体や多方面で今後活かしていけると思います、といった御意見をいただいております。

事前意見・御質問ありがとうございました。以上で政策6の説明を終わります。

○堤委員長

ありがとうございました。それでは、ただいまの内容について、御質問や御意見があればお願いいたします。

○宮腰副委員長

意見ということで事業 16 の科学館の件ですが、リニューアル計画が動いていて大変ありがたく思っております。去年もしかすると言ったかもしれませんが、科学館の中の什器、子どもたちが実際に使っているいろいろな体験をするわけですが、どうしても傷みやすいというのがあると思います。ですので、リニューアルした後は継続的に修繕などの予算をみていただけたらと。やっぱり壊れやすいと思うので、その辺りを継続的に見ていただければと思いますという意見をさせていただきます。

○堤委員長

そのほか、いかがでしょうか。

○委員

事業 13 の文化芸術推進事業についてです。19 ページのところです。「市内小規模校での学校音楽鑑賞教室の開催」は恐らく今年度初めてかと思っておりますが、すごくいい取組で、小規模校にとってはすごくありがたい話だったと思われまます。これは小規模校全校が利用できるシステムなのか、例えば6校あれば年に1校だけなのかということと、次年度以降も継続してもらえる事業なのかをお聞きしたいと思います。

○文化創造推進課（加藤課長）

轟小学校で開催したとき保育園の皆さんも来ていただきまして、地域の方も鑑賞できて非常にいい場だったと思います。委員がおっしゃるとおり今年度から始めた事業ですが、これは、「インフィニート・コラルコ弦楽合奏団」の方たちからこういうふうな活動をしたいということで、当課の方で補助制度を作っております、その補助制度を利用しての御提案の中で採択して今回やったというような経緯でございました。ですので、今の段階ですと、小規模校だからやるというような施策にはまだなっていないということで、文化活動の団体さんからの申請で補助を採択したということです、委員がおっしゃったとおりだと思います。今後小規模校への対応を市の事業として組み立てるかどうかというところを、来年度に向けて検討していきたいと思っております。御意見ありがとうございます。

○委員

その際は参加させていただきましたが、小規模校に関しては、何かを観たいなと思っても保護者から集まるお金については結構少ないので、なかなか難しいというのがあります。もし、そういった形でヘルプしていただければ、小学校の子どもたちもありがたいと思っております。もう1点、事業 19 の小・中学校整備事業です。ハード面では色々な修繕などがありますが、以前からお話ししていたとおり、校舎の塗装といった整備を盛り込んでいただければという希望があります。エアコンの設置などはすごくいいと思っておりますが、コンクリート打ちっばなしではなく塗装していただければと希望します。

あとは、事業 2 の保育士修学資金貸付金事業では保育士の人材育成など、いろいろなことで市の方からも応援していただいておりますが、貸付者が5人いて従事者1人となっておりますが、そのお金を借りていても市内に残って働く人は1名という意味なのか、そこはいかがでしょうか。

○こども未来課（夏井課長）

資料に記載のとおり貸し付けた方が5人であっても、保育士として従事するために市内に残った方が1人のみという数値になっておりました。以上でございます。

○委員

私どもにとっては厳しい現実だと思っておりました。市内の保育所に5年間勤めると返還を全額免除するという内容だと思いますが、1年借りて4万円×12か月で48万円、2年借りると96万円。それでも5年間勤務なのか、どうでしょうか。

○こども未来課（夏井課長）

学校卒業後、市内の保育施設に勤務して5年以上経過した場合には免除になるという条件についてきましては、借受期間が1年であっても2年であっても同じような条件になります。

○委員

私個人の意見ですが、48万円、96万円というのは5年かけても払えない金額ではないと思いました。以前は奨学金をいただいて残っている学生が多いというのがありましたが、ここ最近では1人ということで本当に厳しい思うところと、1年借りても2年借りても5年というのはいかして長いのかどうでしょうか。私ども保育園の方は、一人でも多く東京に流出しないで市内で働いていただければという願いはありますけれども、現状はなかなか厳しい。きちんと常勤で入るとあつという間に返せるお金ではあるので、そういったところの改善、八戸に残ってもいいと思う改善策があれば、一人でも二人でも八戸に残っていただけないかという意見でした。

○委員

実際の施策とは関係ありませんが、興味があるので聞いてみたいです。事業7の八戸市次世代エール商品券発行事業のところですか。業者選定方式がプロポーザルで、今世間で言われているようなやり方でなされていると書かれていますが、これはどれぐらい応募があるもののでしょうか。委託先に選ばれた「ラブはちのへ地域ペイプロジェクト」は、どこの地域の事業者さんが、どういう流れでここに委託になったのでしょうか。興味があったのでお聞きしてみたいのですが、この方式でどれぐらい応募がありますか。

○事務局（安原次長）

すみません。この事業に関しては、今日担当課が来ていなかったようです。この次世代エール商品券に関する詳細については分かりませんが、プロポーザルに関しては、事業費・予算額を示しながら、事業者から提案していただいた企画内容でもって業者を選定するという形です。何社ぐらい集まるのかというのは、その事業に応じて少ないときもあれば多いときもあるということでケースバイケースかと。一般的に何社ぐらいというのは言えないところです。

○委員

たくさんある中から選ばれているのですか。

○事務局（安原次長）

次世代のときの選定過程は私も今把握しておらず、申し訳ありません。あと、地域というのは、八戸市内か市外かということですか。

○委員

市内の業者さんですか。

○事務局（安原次長）

これは市内かと思います。ラブはちのへ地域となっているので。後で詳しく。

○委員

こういう方式でいろんなことが決められてというのは私どもの業界でもあるので、このときにはどういう方法で選定されたのかと興味があって聞いてみました。

○事務局（安原次長）

一般的には、外部の方を入れた複数名の審査員の前でプレゼンテーションであったり、あとは書類審査であったり、方法は様々ありますけれど、いずれにしても各事業所さんから提出いただいた企画内容でもって審査、決定されています。詳しくは後ほどお伝えいたしますので、よろしくお願いいたします。

○委員

1点御質問させていただきます。重点施策6-4の子ども食堂の支援です。2年目の取組実績・成果のところに、「アンケート結果を踏まえ、広報支援の強化や実施団体のニーズにあった支援を検討」という文章があって、このアンケート結果でどのようなニーズが発掘されて、3年目にどのように活かされたのかというのが気になったので御質問させていただきます。

○子育て支援課（森林課長）

まず、子ども食堂実施団体を対象としたアンケート調査でございますが、この中で上ってきた意見は様々あったところでしたが、アンケートを実施したのが、コロナが収束するような時期でしたので、上がってきた意見としましてはコロナに対する感染症対応、あるいは継続支援していくにあたってコロナ等で企業からの寄付が少ないということで、継続支援をしていくための経済的な支援の必要性等です。

あとは、子ども食堂を開催するにあたってはマンパワーが必要ということで、学生ボランティアをどうしたら活用していけるのかというようなところが課題として上がってきて、こちらで聞いているところでございました。

それを踏まえて、どういうことを行えたのかというところですが、1つは国の交付金を活用しながら子ども食堂の継続運営ができるようにということで、ちょうど物価高騰が始まった段階だったので、そういうところに1団体当たり6万円程度の物価高騰支援金を交付したところでございます。

また、今年度、アンケート調査に加えて実施団体6団体ほど来ていただきまして、意見交換会を開催してございます。その中では、事業費の補助の部分や開催する施設の確保、実際事業を展開するにあたってはどうしても学校との連携というところも課題ということで、そういうところに対しての改善の意見が出たところでございます。課としては意見交換会を今年度2回、7月に開催いたしましたので、今その内容を取りまとめて来年度以降、恒常的な支援事業を実施したいということで、今中身を検討しているところでございます。以上でございます。

○委員

大変分かりやすい説明、ありがとうございます。

○宮腰副委員長

今の重点施策6-4のところの事業2の方でお聞きしたいのですが、子ども食堂の物価対策の支援ということですが、2年目のところは交付額が1団体当たり6万円ということで、これは一律ということでよいのでしょうか。3年目になると1団体当たり6万円から上限12万円ということでちょっと表記が変わっていますが、これは一律ではなく実績なのか分かりませんが、その違いとかどういう経緯で変わったのか教えてください。

○子育て支援課（森林課長）

まず、2年目のところの1団体当たり6万円ですが、こちらの方は事業が年度の途中から開始しているところがございます。あとは、コロナが5月から感染症法の取り扱いが変わったということで、変わったあとに子ども食堂が再開し始めましたので、子ども食堂に対して年に6回程度開催していただきたいということで、月1回当たり1万円。それで6回というような概ねの算定ですけれども、そういうことで交付額を設定しています。

3年目の方ですけれども、子ども食堂も年間ベースで動いてきてございますので、こちらも1回当たり1万円という積算で、年間で6回以上開催した団体に対して、その回数に応じて上限12回まで12万円ということで交付額を設計してございます。以上でございます。

○委員

61ページ、事業3の国際理解教育・英語教育推進事業ですが、JETプログラムのALTは分かりませんが、市直接任用のALT2名との違いは何なのかが1点と、JETプログラムで来たALTの方が各中学校に配属されていますが、英語を教えるだけではなくて、せっかく地域にいらっしゃるからもう少し地域との関わり合いを持って、もっと密着できたらいいのではないかと感じておりました。以前は市内に6人ぐらいしかいない時代もありまして、そういうときでもいろいろなイベントを手伝ってくれて非常にフレンドリーな感じがありましたが、各地域の中学校に配属して人数が多くはなっていますが、なかなか見えないという部分が地域にいて感じる場所がございます。ですから、教えること以外にもちょっと地域との何らかの関わり、顔を知ってもらうということもあっていいと思いました。

3点目ですが、八戸国際交流協会で「りんぐりんぐ」という広報誌を出しております。私も第1回目からやらせていただいて感じたことは、市内の人たちに「りんぐりんぐ」を通して、JETプログラムで来たALTはどんな方なのか、どこの中学校ではこういう先生が来ているというのを皆様に広めたく、入れ替えがあるごとにやっています、最近疑問に思ったことがございました。顔を知ってもらうことに拒否反応を示しているALTの方がいて、顔写真の中で2、3年ほど空欄の部分が目立っております。私はこれでいいのかと会議の中でいつもお話しはしていますが、やはり八戸市として採用されて来ているのであれば、顔を出すのを拒否される方がいるのがどうかと、八戸市で雇用しているわけだから市民が知る権利があると思っています。以前はそういうことはありませんでした。ここ数年です。空欄のところを見た方たち、例えばある中学校のある先生は顔写真がない。個人情報といえばそうですが、ただ雇用しているのは八戸市なので、それを知る権利というのは市民にもあると思うので、そういうところも御指導していただければありがたいと思いました。以上です。

○総合教育センター（松橋副所長）

今、3点御意見いただいたと思います。まず1点目、市の直接任用ALT2名についてでございますが、JETプログラムのALTと同じように授業の支援を行うと同時に、ALTの生活支援等も含めてコーディネーター業務を行っているALTになります。ですので、JETプログラムのALTの仕事プラス、市からお願いをしている生活支援の仕事を担っていると考えていただければよろしいかと思います。

2点目の地域への参加が少なくなったというあたりです。その経緯について私の方では把握しておりませんが、今でも公民館等からも要望がございますが、地域から ALT の参加の要望があれば現在はお応えしている状況でございますので、是非地域の方からも積極的に ALT の参加の御希望があれば、ALT も前向きに参加するのかなと思っておりました。

3点目の顔が見えないというあたりもいろんな個人情報観点もございまして、最近でも LGBTQ などございまして、かなり ALT からの要望も多くなっております。名前等の公表に関しても本名ではなくという希望もございまして、本人からの希望をまず優先させて私たちは対応しているというところになります。御意見いただいた市民への周知ということも大切なことでございますので、その点も担当と相談して対応できる部分は対応していきたいと考えておりました。以上です。

○委員

ありがとうございます。となると、市直接の ALT の方は JET プログラムでは配置されていない方ということになりますか。

○総合教育センター（松橋副所長）

以前は JET プログラムで派遣された ALT が、そのまま現在も 10 年近く八戸に住んでいる ALT を直接人用という形で雇用しておりますので、JET プログラムを経験して直接任用につながっているということになります。

○委員

例えば「りんぐりんぐ」の広報の中でも、市雇用の 2 名の方を載せることは可能ということですね。

○総合教育センター（松橋副所長）

市直接雇用の 2 名という形で載せるということでしょうか。

○委員

例えば、中学校分野に入っていない方ですね。

○総合教育センター（松橋副所長）

いえ、学校にも訪問しております。

○委員

中学校配置で 1 人ずついますよね、各中学校。

○総合教育センター（松橋副所長）

全中学校分ごと配置までの人数にはなっておりません。ALT は 22 名ですが、中学校はもう少し多いので、複数の中学校を担当している ALT もございます。

○委員

分かりました。ALT の方たちは意外と給料が高額になっているかと思われるので、そういったところでいろいろ動いていただければと思っておりました。参考になりました。ありがとうございます。

○司会（見付 GL）

先ほどの委員の質問、よろしいでしょうか。

○堤委員長

はい。今担当の商工課の課長が来ましたので、お願いします。

○商工課（市川課長）

すみません、遅くなりました。委員から御質問がございました、八戸市次世代エール商品券発行事業のうち、システム開発業務委託事業者の募集に係るところで、プロポーザルの選定方式というのはどのようなものかという御質問だと認識していますが、こちらの方で次世代エール商品券を発行するシステムをつくりたいんです、仕様はこうですというような仕様書を含めた要領というものを広くホームページなどで一般に公募をかけまして、それに基づいて、じゃあ我々はこのことができますよと手挙げをした事業者を集めてプレゼンをしていただいて、審査してこの事業者という形で選ぶというものでございます。こちらの事業は、市単独というよりは実行委員会の事業でございまして、商工会議所さんの方がメインでやられていたというような事業でございまして、市はこれに対して負担金を払っているという仕組みでございまして。

実際どれぐらいの事業者が手を挙げたのかという御質問でございまして、こちらは「ラブはちのへ地域ペイプロジェクト」様を含めて5社の提案がございました。プロジェクトの代表企業「㈱トータルペイメントサービス」様ですが、こちらは愛媛県松山市の企業でございまして。以上でございます。

○委員

市内の業者からも手は挙がっていますか。

○商工課（市川課長）

この5社を見ますと全国区ですね。市内はないです。

○委員

決まったものに関しては、ホームページで皆さんにお知らせしていますか。

○商工課（市川課長）

すみません。事実確認をしてからになりますので、はいとかいいえとかお答えしかねますけれども、一般的に市で、公募で広く募ってプロポーザルしたからには、こうなりましたと広くホームページに通常は上げているはずですよ。

○委員

ありがとうございます。

○堤委員長

そのほかはよろしいですか。それでは評価に入りたいと思います。政策6における各重点施策の評価について、「達成できている」と「一部達成できている」がありますが、こちらの妥当性について、御意見をお願いいたします。

「異議なし」

○堤委員長

それでは、政策6の各重点施策の評価については、評価案のとおりと決定します。次に、政策6全体の評価については、事務局案の「一部達成できている」でよろしいでしょうか。

「異議なし」

○堤委員長

以上で、「政策6 「子どもファースト事業」の展開」についての審議を終わります。

政策 7 多様な市民力を地域の活力に

○堤委員長

続いて、「政策 7 多様な市民力を地域の活力に」について、事務局より説明をお願いします。

○事務局（磯谷主査）

政策 7 について御説明いたします。参考資料 1 の 5 ページを御覧ください。政策 7 は多様な人材に関する分野で 6 つの重点施策で構成されております。

若者・女性の活躍、シニア世代のスキル活用など、多様な人材が活躍できる八戸を目指しますというところがございます。重点施策は 6 つありまして、

- ① 高校・大学卒業を機に転出した若者・女性に向けた「ふるさとメール便」・「ふるさと情報アプリ」の導入やリモートワーカー等の積極的な受け入れにより、若者・女性の移住促進に取り組めます。
 - ② 産業界と教育界の連携を図り教員、生徒、保護者を対象とした地域における産業教育の充実により、大学生や高校生の地元定着を図ります。
 - ③ 若者・女性にとって魅力ある街づくりをビジョンに掲げ「(仮称) まちの魅力創生ネットワーク会議」を立ち上げます。
 - ④ 社会人を対象に、資格、技術、技能、専門知識の習得など、地域や企業に役立つ人材を育てるための学びの場として「(仮称) キャリア教育講座」を設置します。
 - ⑤ シニア世代の資格や技術・技能・専門知識などのキャリアを活かし、中小企業の人材不足と経営再生を支援するため、人材(スキル) を登録し、マッチングを支援する仕組みづくりに取り組めます。
 - ⑥ 地域の協力を得ながら、高齢者サロン・老人クラブ等の高齢者の生きがいづくり活動を支援すると共に、高齢者の社会参加の促進を図ります。
- というものでございます。

それでは資料 1 の 11 ページの評価案を御覧ください。重点施策 7-1 では、若者・女性の移住促進です。2 事業紐づけており、事務局評価案は昨年度と同様に「一部達成できている」としてしております。

理由は、若者・女性を含む当市の関係者や関係人口に情報を届け、移住を促すため、卒業生向けのポストカードの配布による直接的なアプローチのほか、ふるさとメール便やふるさと情報アプリ、各種 SNS の運用などの積極的なメディアの活用が行われていること。

また、インターネット広告バナーや移住促進 PR 動画を制作し、リモートワーカー等向けの PR やイベント時に活用しているほか、移住相談会の参加、移住窓口の整備、移住・交流ポータルサイトの運営を行うなど、当市への移住促進に幅広く取り組まれているためでございます。

続いて、重点施策 7-2 では、大学生や高校生の地元定着の促進です。4 事業紐づけており、事務局評価案は昨年度と同様に「一部達成できている」としてしております。

理由は、学生の地元定着の促進のため、産業界や教育界と連携して、事業所向けのセミナーの開催や小中学生及び高校生が地元企業に触れ合える機会の創出、企業の魅力を発信する取組が着実に実施されているとともに、高校生による地元企業魅力体験事業について、高校側から周知時期に関する要望を受け、新年度明けの事業周知に切り替えたほか、学生の受入参加人数枠の拡充を行ったところであること。こちらは昨年度の委員意見である魅力体験事業について、より参加者を増やす取り組みをする必要があるとの意見を踏まえたものとなります。

八戸産学官連携推進事業では、地元の理解を深めるための八戸地域学が継続されているほか、地元企業が求める人材ニーズ調査が新たに予定されており、今後は同調査に基づき、産学官で連携した学生の地元定着に向けた取組が検討される予定となっていることから一部達成と判断したためでございます。

続いて、重点施策7-3では、「まちの魅力創生ネットワーク会議」の設置です。1事業紐づけており、事務局評価案は昨年度と同様に「達成できている」としております。

理由は、市の附属機関として同会議を設置し、令和5年度に引き続き令和6年度も同会議からの提言を踏まえた具体的な事業化がされている。また、令和6年度も提言作成に向けて、継続して会議が開催されているためでございます。

続いて、重点施策7-4では、(仮称)キャリア教育講座の設置です。1事業紐づけており、事務局評価案は昨年度から上昇し、「達成できている」としております。

理由は、令和5年9月に社会人を対象としたキャリアアップを啓発するセミナーが開催され、参加者から満足度が高い評価が得られたところであること。今年度も引き続きセミナーが開催されており、地域や企業に役立つ人材を育てる取組が継続して実施されているためでございます。

続いて、重点施策7-5では、シニア世代のキャリアを活かした中小企業への支援です。2事業紐づけており、事務局評価案は昨年度と同様に「達成できている」としております。

理由は、八戸市無料職業紹介所等の運営によりシニア世代を含む求職者と求人企業とのマッチング支援の仕組みが構築されており、資格などのキャリアを持つシニア世代の人材の登録が行われていること。また、シニア世代からの相談時には、外部団体であるシルバー人材センターやネクストキャリアセンターあおもりを併せて紹介するなど、シニア世代の就業を幅広く支援する取組が実施されているためでございます。

続いて、次のページをお開きください。重点施策7-6では、高齢者の生きがいづくり活動への支援と社会参加の促進です。4事業紐づけており、事務局評価案は昨年度と同様に「達成できている」としております。

理由は、ほっとサロンの開催及び老人クラブへの補助金交付等による生きがいづくり活動の支援や、鷗盟大学の運営及びシニアはつらつポイント事業による高齢者の社会参加の促進に関する取組が継続して図られているためでございます。

最後に、政策7を構成する各重点施策について、一部達成の項目もあることから、政策7全体の評価は「一部達成できている」としております。

以上が政策7の説明になりますが、事前意見と質問がでておりますので、回答させていただきます。

資料2の5ページ目をお開きください。まず、重点施策7-1若者・女性の移住促進に対する質問ですが、Uターンは各家庭や個人の事業など様々な要因によるきっかけがあると思いますが、例えば、市外県外で培ったスキルや人脈を生かして地元八戸でいきいきと仕事が出来ている若者がひとりでも増え、その方の体験が発信されることも移住促進に大きく寄与するのではないかと考えます、といった御意見でございます。

また、関連した質問ですが、参考資料2の65ページ【移住・交流促進事業】の取組です。こちらのページをお開きください。

- ① 広告バナーや移住促進PR動画など、リモートワーカー向けのPRなども実施していると表記がありますが、実際に各種移住・交流促進事業に参加した方の移住例があったか教えてください。
- ② 移住後の職業は移住者が望んでいる職種に従事できたのか教えてください。

こちらに対する回答ですが、

- ① 当市の移住関連部署についてですが、広報統計課では移住・交流促進事業を進めるにあたり、リモートワーカー向けインターネット広告配信など各種取組みを行うほか、移住相談の総合窓口を担い、相談内容に応じて担当窓口を御案内しています。また、産業労政課では、職業紹介や移住に関する助成金の交付などを担当しております。御質問いただきました「各種移住・交流促進事業に参加した方の移住例」につきましては、把握しておりませんが、移住相談やイベント等に会場した相談件数は、令和4年度が404件に対し、令和5年度は613件と増加していることから、移住先としてのニーズは例年並みかそれ以上のものがあると認識しております。引き続き、移住関連の情報発信に努め、きめ細やかな相談対応と支援制度の活用によって、当市への移住を考えている方の後押しをしていきたいと考えております。
- ② UIJ ターン就職をはじめ就労に関する御相談は産業労政課で承っておりますが、当市への移住を検討している方からお仕事についての御相談があった際には、その方の希望する職業を聞き取った上で求人情報を紹介するなど、その方が望んでいる職種に従事できるよう相談対応しております。

続いて、次のページを御覧いただき、7-3「まちの魅力創生ネットワーク会議」の設置についての御意見ですが、提言が生まれるまでの根拠や会議内での議論、また提言に基づき実施される取組みなどが分かりやすく記載されていてとても勉強になったとともに、会議で出した意見が施策になる、実現するということを実感するものでもありました。この会議の内容をぜひ発信強化していただくとともに、市の施策としてはもちろんのこと市民活動団体をはじめとする各分野の活動とリンクさせて、市民参加型の提言実現にも取り組んでいってほしいと強く考えます、といった御意見でございます。

以上で質問・回答を含めた政策7の説明を終わります。

○堤委員長

ありがとうございました。それでは、ただいまの内容について、御質問や御意見があればお願いします。

○委員

7-1の若者女性の移住促進の評価案に関して質問をさせていただきます。一部達成できているという評価案を出していますが、なぜ一部という評価にしたのか根拠を教えてくださいと思います。理由として、ほかの評価案では一部達成できていることに対して根拠といいますか理由が明記されているので、その部分が気になったので質問をさせていただきました。市としてどうなれば達成できているというイメージがあるのか、数値化してというのは難しいとは思いますが、ざっくりとあればお教えいただければと思います。

○政策推進課（安原次長）

昨年度も一部達成で、内容の方が昨年度とほとんど同様ということで、事務局案として挙げたものでございます。以上です。

○委員

ありがとうございます。

○委員

重点施策7-4のキャリア教育推進事業ですが、3年目の令和6年7月にキャリアアップを啓発するセミナーを8月7日に開催予定となっております。これは何名ぐらいの参加者がいたか分かれば教えていただきたいのですが、よろしくをお願いします。

○産業労政課（佐々木課長）

キャリアアップ教育推進事業に関しては、令和4年度からスタートさせた事業でございます。4年度は、地域の企業さんに向けてどのようなニーズがあるのかという調査事業をやったところございまして、今年度から実際にセミナーを開催したところでございます。その内容でございますが、キャリアアップの中でも専門的な知識な習得とか具体の事象に関するものではなくて、自分自身のキャリアをいかにアップさせていくかという自己啓発に主眼を置いた内容として開催をしてございまして、令和5年度は受講が30名ということで、地域の企業の皆様に参加をいただいております。今年度も同様の規模で開催をしたいと考えているところでございます。以上です。

○委員

8月7日に開催予定ということですが、今年度は開催されていないということですか。

○産業労政課（佐々木課長）

2回やることにしてございまして、この資料を作ったときには1回目が7日開催予定と、作成時期のタイミングでこのような表記になっていたところでございます。実際も30名参加しているというところでございます。

○委員

はい、分かりました。ありがとうございます。

○宮腰副委員長

重点施策7-2の事業2のところですが、意見という形になります。地元企業ファンづくりプロジェクト事業で、小学生から大学生を対象として地元企業をぐるっと回って御紹介いただいておりますが、ちょうど大学におるものですから学生側の様子などを見ますと、最近の学生は、もちろん安定したというか非常に地元の実績ある企業がいいと思いますが、仕事内容、それも最近の仕事内容が非常にバラエティーに富んでいるところもありまして、そうしたところで仕事を見ているということがあります。いわゆる「新しい仕事」ですね。一例で私が知っているところだと、イベント企画。そうした一般的な企業ではなく、様々な働き方の仕事をしているところがあります。ですので、協力企業さんのことをまとめた冊子がありますが、そこに新しい形の企業というものを是非入れていただいた方が、地元にもそういう仕事があるということが分かって定着につながると。逆に言うと、そうしたものは東京に出なければそういう仕事がないというふうを考えている学生も中には見られます。ですので、そうした新しい、あるいは東京の方から八戸の方に進出して企業を入れていただきたいです。

それからもう1つは、いわゆる「働き方」というものが昔に比べて幅広くなってきていて、例えば東京の方の企業であっても八戸にいて仕事ができるという選択肢も中には出てきていて、そうであれば仕事自体は東京の企業であっても、八戸に住みながら働けるといった選択肢も学生の

方では考えていたいというような形になってきています。こうした地元に着を促す形を考える場合に、いろんな働き方を紹介いただけると良いかと思っておりますという意見です。

○委員

事業4のシニアはつつポイント事業ですが、「達成できている」となっています。この内容を見ますと、ボランティア活動をしたときにポイントを付与すると書いてありますが、2年目は会員登録者数147名のうち活動実人数は5名、ポイント活用人数は2名。3年目に行くと会員登録者数がちょっと減って106名のうち活動実人数が23名。ということは、ポイントがこの23名に付与されているということになるのでしょうか。ポイント活用人数11名というのはポイントを何かに使ったという人数だと思っておりますが、この「達成できている」の根拠を知りたいです。

○高齢福祉課（八木澤 GL）

シニアはつつポイントですけれども、高齢者や介護施設等で資格を必要としないようなお手伝いをするということで、お話し相手になるとか市内の草取りをするとか、そんなに高度な技術を要しない形で活動に参加していただいているボランティア活動になります。2年目のところにつきましては、会員登録者数というのはコロナ禍前からの登録者数ということで147名ですが、実際活動されている方というのはコロナ禍の影響で非常に少ない人数で5名の参加となっておりました。3年目に入りまして会員登録者数はコロナ禍の影響で下がっていましたが、コロナが5類に移行したことで参加者数が23名と増えてきたところです。今コロナが明けて、活動人数が増えてきていましたので、そういうところで達成ということで評価させていただきました。以上です。

○委員

分かりました。ありがとうございます。

○堤委員長

そのほか御意見、御質問等ございませんか。私も先ほど委員が言ったことを思っていて、同じことをやられていますけど、これをまた来年度も同じことだったらそのまま評価が変わらない。ある程度フォロワー数増えたりとか相談者が倍増したりしているところもあるので、ほぼ同じことはやっている中で、どうなったら達成なのか私も聞きたいところです。

○政策推進課（安原次長）

先ほどの御質問、評価の考え方という部分になると思いますが、各公約にぶら下がっている事業の取組の状況であったり、例えば移住であれば移住の実績が増えているなど、そういった状態を総合的に判断して定性的に評価するという形になると思います。この移住に関しては取組が昨年度と同じで、移住が飛躍的に伸びた実績もないというところで、今回は一部達成ということで判断いたしました。もしこれを達成に持っていくとすれば、何か新しい取組を加える、現状の取組の中で移住者を増やすといった変化があれば、皆様にお示しする時点で事務局としては達成と判断できるのかなということでしたが、今年の7月の段階では一部達成と我々は判断して皆様にお示ししているということでございます。以上です。

○堤委員長

分かりました。移住促進に取り組むという点で、結果移住者が増えているとかそういうことでの評定ということですね。ありがとうございます。それでは評価に入りたいと思います。政策7における各重点施策の評価について、「達成できている」及び「一部達成できている」とあ

りますが、こちらの妥当性について、御意見をお願いいたします。

「異議なし」

○堤委員長

それでは、政策7の各重点施策の評価については、評価案のとおりと決定します。次に、政策7全体の評価については、事務局案の「一部達成できている」でよろしいでしょうか。

「異議なし」

○堤委員長

以上で、「政策7 多様な市民力を地域の活力に」についての審議を終わります。

政策 8 暮らしやすく人に優しいまちづくり

○堤委員長

それでは、再開いたします。「政策 8 暮らしやすく人に優しいまちづくり」について、事務局より説明をお願いします。

○事務局（磯谷主査）

政策 8 について御説明いたします。参考資料 1 の 6 ページをお開きください。それぞれの地域の特色を活かすと共に、身近な歩道の整備などに配慮したまちづくりを目指しますということで、

- ① 地域の活力を維持するために「コンパクト&ネットワーク」の街づくりを推進すると共に、地域らしさを創出するための協働のまちづくりを推進します。
- ② 市民にとって身近な公園や歩道の整備、公共施設等の保守・修繕・バリアフリー化を進め、人にやさしい街づくりを推進します。
- ③ 空き家の適正管理を進めるほか、空き家のリフォームやリノベーションによる転用などの利活用を促進します。
- ④ 市民と共に創る「市民目線のまちづくり」を目指して、「(仮称)市長との公民館サロン」を開設し、開かれた市政を実現します。

という 4 つでございます。

それでは事務局案の 13 ページを御覧ください。重点施策 8-1 では、コンパクト&ネットワークの街づくりと協働のまちづくりの推進です。13 事業紐づけており、事務局評価案は昨年度から上昇し、「達成できている」としております。

理由は、八戸市立地適正化計画が令和 6 年 3 月に改定されたとともに、同計画によるコンパクト&ネットワークのまちづくりとして、田向地区、八戸駅周辺地区、中心街地区の施設誘導が確実に進められているほか、公共交通計画に基づく取組により、市内公共交通の維持が図られていること。さらに、JR 八戸線の沿線自治体と連携して路線維持に向けた活動を行うなど、公共交通の維持に向けた取組が実施されていること。また、連合町内会の基盤強化や地域負担軽減のための交付金を創設したほか、協働のまちづくりに向けた市民及び市職員向けの研修会の開催など、市民とともにまちづくりを推進するための取組が実施されているためでございます。

続いて、重点施策 8-2 では、人に優しい街作りの推進です。9 事業紐づけており、事務局評価案は昨年度と同様「一部達成できている」としております。

理由は、八戸市公共施設等総合管理計画に基づき、計画的な公共施設の管理を進めているほか、公園については利用者ニーズに沿った整備を進めていること。比較的大きな公園の整備については残り 1 箇所となり、現在は基本設計を策定中であること。また、青森県無電柱化推進計画に基づき、計画的に無電柱化工事を進めているところであること。歩道については日ごろから補修を行っていることから、人に優しいまちづくりに資する取組を進めているものの、市民にとって身近な通学路の補修工事が令和 7 年度までの 3 か年計画での工事であることから一部達成と判断したためでございます。

重点施策 8-3 では、空き家の適正管理と利活用の促進です。2 事業紐づけており、事務局評価案は昨年度と同様「達成できている」としております。

理由は、空き家の管理に関する相談対応や広報はちのへへの啓発記事の掲載により、適正管理に係る取組が継続して実施されているとともに、空き家ポータルサイトの運営及びリフォームやリノベーションを対象とした補助金による利活用促進が図られていること。今年度からはちのへ空き家解消ネットワークを運営し、さらなる空き家解消に向けた取組の強化が図られているため

でございます。

続いて、次のページをお開きください。重点施策8-4では「市長との公民館サロン」の開設です。1事業紐づけており、事務局評価案は昨年度から上昇し、「達成できている」としております。

理由は、令和5年までにすべての地区で開催されており、地域の現状や課題、市政状況等についての相互理解が図られたところであること。これまでに取り上げられたテーマについては引き続き進捗管理が行われているとともに、令和6年度から「みんなで取り組む地域づくり」を共通テーマに市内38連合町内会を対象とした公募により、年10回程度開催される予定であるためでございます。

最後に、政策8を構成する各重点施策について、一部達成の項目があることから、政策8全体の評価は「一部達成できている」としております。

以上が政策8の説明になりますが、事前質問がでておりますので、資料2の6ページをお開きください。

8-1コンパクト&ネットワークの街作りと共同のまちづくりの推進で、「八戸市連合町内会活動活性化交付金事業」です。参考資料2の95ページをお開きください。質問ですが、

- ① 今年度の事業開始7月現在で、6団体850千円交付済みであるというが、その取り組み内容について、どのようなものがあるか。
 - ② どのような加入促進活動や広報活動をしているのか。
 - ③ デジタル化推進の取組をしようと思っているところはあるのか。
- という3つでございます。回答でございますが、

- ① この交付金は6月から募集開始して10月まで申請受付しているもので、交付対象となる5つの項目の中で、具体的な活動内容は地域に考えていただいています。現時点で申請が多い活動は、広報活動と地域オリジナル活動です。広報活動は掲示板の設置や補修、町内会活動をPRするオリジナルカレンダーの作成などで、地域オリジナル活動は、地域のオリジナルキャラクター（イカジン）の被り物を子どもたちへ配り色塗りをしてもらおうといった取組や「地域の底力」実践プロジェクト事業において取り組んだ歴史看板を設置し、地域の歴史資源を紹介する事業の継続といった取組です。
- ② 現在申請いただいているもののうち加入促進活動については、地域独自のちらしを作成し未加入世帯へ配付するもの、広報活動は上記①のほか、地域のまつり（新田城まつり）が今年度20周年にあたるため、まつりの意義や歴史をあらためて地域住民へお知らせする記念パンフレットを作成するといったものもあります。
- ③ 現時点では1団体から申請いただいております。内容は町内会のホームページ作成に向けた勉強会の開催です。

また、8-4市長との公民館サロンで御意見がございました。資料2の7ページでございます。市長自らが地域に出向き、市民と直接の対話を通して意見交換を実施する施策はとても素晴らしいと思います。一巡したということで、ホームページを御覧になった委員の方から、全224のテーマについて報告や今後の展開を知ることができました、と御意見いただきました。さらに、「八戸市連合町内会活動活性化交付金」の始動と本施策を掛け合わせることで、より多くの町内会が抱えている課題解決に向けた活動が展開されるようになって欲しいと思うとともに、交付金に係る市から町内会へのフォローアップ強化をぜひお願いしたいと考えますというものでございま

す。

以上で、御質問と御意見を含めた政策8の説明を終わります。

○堤委員長

ありがとうございました。それでは、ただいまの内容について、御質問や御意見があればお願いいたします。

○委員

事業9の市営バス運転手確保対策事業、94ページになります。ここに、入社した方に大型自動車第二種免許取得費用を助成すると載っていますが、これは意見として、民間のバス会社さんに入社すると、準備金ということで20万円を出したりして新規のドライバーを集めようというふうなやり方をしています。市営バスは免許に対しての援助しかやっていないということですが、そのほかに何かやっていることはありますか。あれば教えていただきたいです。

○運輸管理課（田中 GL）

市営バスの方では助成のほかにはやってはおりません。

○委員

市営バスはやはり市民の大切な移動手段ということですので、運転手さんを確保するという意味では、民間の同じようなバス会社さんとの人材確保の競争となります。民間の方の動きとか募集の内容などを見ながら検討して、良い事業に展開できるようにお願いをしたいと思います。よろしく申し上げます。

○堤委員長

それでは評価に入りたいと思います。政策8における各重点施策の評価について、「達成できている」及び「一部達成できている」とありますが、こちらの妥当性について、御意見をお願いいたします。

「異議なし」

○堤委員長

それでは、政策8の各重点施策の評価については、評価案のとおりと決定します。次に、政策8全体の評価については、事務局案の「一部達成できている」でよろしいでしょうか。

「異議なし」

○堤委員長

以上で、「政策8 暮らしやすく人に優しいまちづくり」についての審議を終わります。

政策 9 経営感覚を持った行財政運営

○堤委員長

続いて「政策 9 経営感覚を持った行財政運営」について、事務局より説明をお願いします。

○事務局（磯谷主査）

政策 9 について御説明いたします。参考資料 1 の 6 ページを御覧ください。政策 9 は行政組織の活性化に関する分野で、4 つの重点施策で構成されております。民間企業との交流の推進や、市長と市職員との率直な意見交換を通じ、行政組織を活性化させますというもので、

- ① 持続可能な財政運営に向け、大型公共施設の維持管理コストと財源の見通しを公開し、併せて施設の有効利用を図ることにより費用対効果を高めます。
- ② 市長と市職員との活発な意見交換を通じ、行政組織をより活性化させ行政改革と市民サービスの質の向上につなげます。
- ③ 民間企業との交流をより推進し、経営感覚やスキルを取得することによって、八戸市のまちづくり経営の事業や施策に反映させます。
- ④ 健康増進、子育て支援などの機能を備えた市民向けアプリを開発し、市民満足度の向上を図ります。また、アプリに市民の意識や満足度を把握できる機能も備えることで市政の改善に活かします。

でございます。それでは事務局評価案資料の 15 ページを御覧ください。

重点施策 9-1 では、大型公共施設の有効利用による費用対効果の向上です。1 事業紐づけており、事務局評価案は昨年度と同様に「一部達成できている」としております。

理由は、はちのへ大型公共施設見える化シートの公開により、維持管理コストと財源の見通しが公開されたほか、公共施設の有効利用に向けた具体的取組を検討するため、市民アンケートの実施や各施設の進捗管理がされていること。同アンケート結果を踏まえ、市民ニーズに沿った施設運営のほか、施設間連携や公民連携の視点も踏まえ整理した方向性に基つき、大型公共施設の有効利用に向けた取組を推進することで、費用対効果の向上や公共施設への理解の深化が図られているためでございます。

続いて、重点施策 9-2 では、行政改革と市民サービスの質の向上です。1 事業紐づけており、事務局評価案は昨年から上昇し、「達成できている」としております。

理由は、市長と職員との意見交換の場として、新採用職員前期研修及び主査級職員研修事業のほか、市長室ダイアログの取組が実施されていること。令和 6 年度は階層別研修の見直しや人材育成基本方針の改訂が予定され、さらなる組織の活性化による市民サービスの質の向上が期待されるためでございます。

重点施策 9-3 では、民間企業との交流促進です。1 事業紐づけており、事務局評価案は昨年度から上昇し、「達成できている」としております。

理由は、民間企業が実施する研修や会議への参加のほか、株式会社まちづくり八戸、一般企業へ市職員の派遣を通じて経営感覚やスキルを学ぶ機会が創出されているほか、民間企業との交流として商工会議所青年部の東北ブロックとの意見交換会や、八戸商工会議所青年部との意見交換会が複数回開催されていること。今後は更なる民間企業との交流の取組として、八戸商工会議所や同青年部との意見交換に関する取組が検討・準備されているためでございます。

なお、評価期間外である 8 月以降に八戸市商工会議所との経済交流サロンの実施や同所青年部から提言を受け、提言内容の実現化に向けた協議を進めております。

続いて、重点施策9-4では、市民向けアプリ開発による市民満足度の向上と意見聴取による市政の改善です。2事業紐づけており、事務局評価案は昨年度から上昇し、「達成できている」としております。

理由は、健康増進アプリ「健はちプラス」、子育て支援アプリ「はちも」が導入され、チラシによる周知が図られており、アプリを活用したアンケート調査も実施されたところであること。今後はアンケート結果に基づき、新たに楽しめる機能追加の検討、イベント情報・子育て支援情報の配信、イベントのオンライン予約の充実など、アプリの利便性向上について取り組まれるところであるためでございます。

最後に、政策9を構成する各重点施策について、一部達成があることから、政策9全体の評価は「一部達成できている」としております。

以上が政策9の説明になりますが、事前質問が出ておりませんので、説明は以上となります。

○堤委員長

ありがとうございました。それでは、ただいまの内容について、御質問や御意見があれば願います。ないようなので、評価に入りたいと思います。政策9における各重点施策の評価について、「達成できている」及び「一部達成できている」とありますが、こちらの妥当性について、御意見を願います。

「異議なし」

○堤委員長

それでは、政策9の各重点施策の評価については、評価案のとおりと決定します。次に、政策9全体の評価については、事務局案の「一部達成できている」でよろしいでしょうか。

「異議なし」

○堤委員長

以上で、「政策9 経営感覚を持った行財政運営」についての審議を終わります。

○事務局（磯谷主査）

このあと全体的な評価になりますので、担当課の職員の方はここで退室となります。ありがとうございました。

《担当課退室》

○見付GL

それでは議事を再開いたしますので、堤委員長、よろしく願います。

全体評価

○堤委員長

引き続き、議事を進めさせていただきます。それでは、政策公約全体の評価について、事務局より説明をお願いします。

○事務局（磯谷主査）

最後に、政策公約全体での評価案についてになります。達成できている政策と一部達成できている政策があることから、政策全体での3年目としての評価としては、資料1の15ページにありますとおり「一部達成できている」と考えております。以上で事務局からの説明を終わります。

○堤委員長

ありがとうございました。それでは評価に入る前に何か御質問はございませんか。

○委員

私の個人的な意見ですが、評価の一部達成できているについて、去年の5月にコロナが明けたわけですね。それから本格的に社会・経済も段々盛り上がって動いてきているわけですが、コロナの影響があって一部しか達成できていない、できていないというところもあったわけですから、それを考えると事務局の評価は妥当かなと思います。以上です。

○堤委員長

ほかに御意見、御質問でもございましたら。よろしいですか。それでは、評価に入りたいと思います。政策公約全体の評価について、ただいま委員から御意見いただきました。

○事務局（安原次長）

今の委員の御意見は、一部達成だけでもコロナ禍でなかなか十分にできなかったということを加味すると、一部ですが頑張っているという評価として受け止めてよろしいですか。

○委員

はい。

○事務局（安原次長）

ありがとうございます。確認でした。

○堤委員長

コロナがなければ、本来はもっと進んでいたと。

○委員

はい。もっと進んでいたと思うのですが、コロナがあったのでこういう現状で一部達成できているという評価でいいのではないかと。

○事務局（安原次長）

ありがとうございます。実際の評価書を提出する際、今日評価いただいた区分の部分と別に、評価書の最初の部分で全体の評価を文章で表現する部分がありましたので、今いただいた御意見をその中で盛り込ませてもらえればと思います。ありがとうございます。以上です。

○堤委員長

それでは公約全体の評価について、事務局案の「一部達成できている」といたします。以上で、政策公約全体の評価についての審議を終わります。

5. 閉会

○堤委員長

ありがとうございました。以上で本日の審議は終了となります。最後に、全体を通しての御意見や言い忘れたことなどがあれば御発言いただきたいと思います。

○宮腰副委員長

ちょっとこれとは関係ないのですが、「〇〇なまち八戸」というのがいろいろ出てきますが、あれは八戸市の方で管理するとか、そういうことをしていますか。それとも独自にあちこち自分で言っているものなのか。

○事務局（安原次長）

「〇〇なまち八戸」。

○堤委員長

ワインとか本とか。

○事務局（安原次長）

今、御質問で管理しているのかということでしたが、特に管理しているということはないと思います。

○宮腰副委員長

「さばのまち」、「本のまち」、「アートのまち」などたくさんあります。雑談ですが、なぜかという、もったいないと思っています。あまりにも乱立していて、「〇〇なまち」ということ自体の価値がなくなってきている、わざわざ言うことかと。「なんでもなまち八戸」ということでもったいないですね。どうせ何かをやるならちゃんとした方がいいのかなと思いつつ、いったいこれはどこでやっているのかなと。うまく活用できればいいなという意見です。

○事務局（安原次長）

各部署でそれぞれ自分たちの施策を売り込みたいというときに、分かりやすいキャッチフレーズ的にそれを使っているというのが現状で、管理の仕方も様々あると思うのですが、全庁的にそれを把握しているのかというと、恐らく管理は一切していません。それをもったいないという意味ではブランディング、シティプロモーションの活用の仕方というところでは、小さい町になると立つ柱が1本ぐらいのところはドンと行けると思いますが、うちは様々あるということ、まさになんでもあるということ、言い訳にして様々良かれと思ってやっていると、いろいろな分野でそれぞれ八戸をPRする意味では、現状ではそれをそういう形で積極的なPRに使っているということで、結果として乱立しているということになるかとは思いますが。

○宮腰副委員長

ブランディングとおっしゃられたのはまさにそのとおりで、対象が今どこになっているかということですが、場合によっては上手く使えば、日本全国に対して使えるような名前になるはずですので、なおのこともったいないというか、そこの辺りをどのターゲットに対してどのレベルで、どうブランディングするかというふうな扱い方を、上手くした方がいいと感じました。

○事務局（安原次長）

ありがとうございます。今、シティプロモーションやうちで取り組んでいる部分では、どちらかという市民向けの PR も考えている要素があります。恐らくアプローチは変わってくると思うので、市外に対しての PR と市民向けの PR というところでは違ってくると思います。今、宮腰委員がおっしゃったのは外向けの PR ということで。

○宮腰副委員長

上手く使えればということ。

○事務局（安原次長）

そうですね。そういった意味でも、どこを押していくかということも決めながら、それを戦略的に媒体も選びながら、というところをやったらどうかという御意見だと理解いたしましたので、そこは担当部署と今後協議、検討してまいります。ありがとうございます。

○堤委員長

そのほかに御意見よろしいですか。それでは、本日の審議案件を終了いたします。次に、その他として事務局から何かありますか。

○事務局（磯谷主査）

事務局から、第6回委員会の開催について御案内いたします。次回は、9月19日（木）午後2時から、会場は今回と同様、この会場で開催いたします。審議事項は「総合計画の意見書及び政策公約評価書のとりまとめ」を予定しております。今回までの委員の皆様から頂きました意見も踏まえ、素案を作成いたします。後日、委員の皆様へ素案を送付し、事前確認を頂きたいと考えておりますが、直前の送付になると存じますので、何卒ご了承くださいませようよろしくお願いいたします。次回の会議ではその素案を基に審議をいただきます。また、市長への意見書・評価書の提出は10月1日（火）午後2時からを予定しております。お手元に出欠連絡票を準備しておりますので、現時点で日程調整が可能な委員の方は御回答いただけますと幸いです。保留の方は後日また、私の方からデータを送りますので、そちらで回答いただければと思っていました。いずれにしても、紙に〇と付けて置いてもらえれば私の方で集計いたしますのでよろしくお願いいたします。以上になります。

○堤委員長

ただいま事務局から次回委員会の開催日程について連絡がありましたので、よろしくお願いいたします。ほかになければこれで終了し、司会の方へ進行をお返ししたいと思います。ありがとうございました。

○司会（見付 GL）

それでは、これをもちまして、「令和6年度 第5回八戸市総合計画等推進市民委員会」を終了いたします。おつかれさまでした。